

## 弥生青銅器の成立年代

Date of the Formation of the Yayoi Bronze Implements

### 春成秀爾

HARUNARI Hideji

#### ①弥生前期の年代

#### ②遼寧式銅剣の年代

#### ③青銅器鋳造の開始年代

#### ④弥生青銅器の成立

#### 【論文要旨】

炭素14年代を測定し、暦年較正した結果によると、北部九州の弥生前期の板付I式は前780年頃に始まる。南四国も前8世紀のうち、板付IIa式併行期に始まる中部瀬戸内の前期は前7世紀、近畿の前期は前7～6世紀に始まる。すなわち、弥生前期は西周末頃に併行する時期に始まり、前380～350年の間、戦国中期に終わる。

弥生前・中期の展開を考古学的に追究するうえで、青銅器の年代は重要な意味をもっている。日本出土の青銅器のうち年代がはっきりしている最古例は、福岡県今川遺跡出土の遼寧式銅剣の鋒と茎を銅錫と銅鑄に再加工した例であって、板付I式に属する。同様の例は朝鮮半島では忠清南道松菊里遺跡などから出土しているので、ほぼ同時期と考えてよいだろう。松菊里式の較正年代は前8世紀であるので、板付I式の炭素年代とも整合する。

青銅器鋳造の開始を証明する根拠は鋳型の出土である。現在知られている資料では、近畿では和歌山県堅田遺跡から銅鉈の鋳型が前期末の土器とともに見つかっている。北部九州では、福岡県庄原遺跡の銅鉈の鋳型が中期初めないし前半の土器と出土している。また、中期初めの斐宿墓に副葬してあった銅戈に朝鮮半島の銅戈と区別できる北部九州独特の型式が知られているので、中期初めには青銅器の鋳造が始まっていたとみられる。弥生前期の存続期間が著しく伸びたので、北部九州の中期初めと近畿の前期末とが実年代では一部重なっていないかどうかの検討が必要である。

銅鐸は愛知県朝日遺跡から最古型式の銅鐸の鋳型が中期初めの土器とともに見つかっている。同時期の石川県八日市地方遺跡出土の木製豎杵のみに知られている独特の羽状文を身に施しているので、北陸の集団も関与して銅鐸が創出されたことは確かである。朝日遺跡から出土した銅鐸鋳型だけでは、最古の銅鐸の鋳造が中期初めに濃尾平野で始まったとまでは断定できないとしても、きわめて重要な手がかりが得られたことはまちがいない。